

# ごあいさつ

本日はお忙しい中、平成 29 年度プロジェクト実習活動報告会にお運び戴き、誠にありがとうございます。  
ございます。

大学間・高大間の連携で、学外の多くの方々に  
ご支援を戴きながら活動し、教室の中だけでは得  
られない、多くの学びを得ることができました。  
ご指導・ご支援を戴きました皆様に、この場を借  
りて篤く御礼申し上げます。

本日の限られた発表時間内では伝えきれない  
お話や、ご覧戴きたい資料を揃えて、ポスターセ  
ッションの場を設定致しました。

これを機に、より多くの皆様にプロジェクト実  
習に関心をお持ち戴ければ幸いです。

手狭な会場で恐縮に存じますが、どうぞごゆっ  
くりご参観下さい。

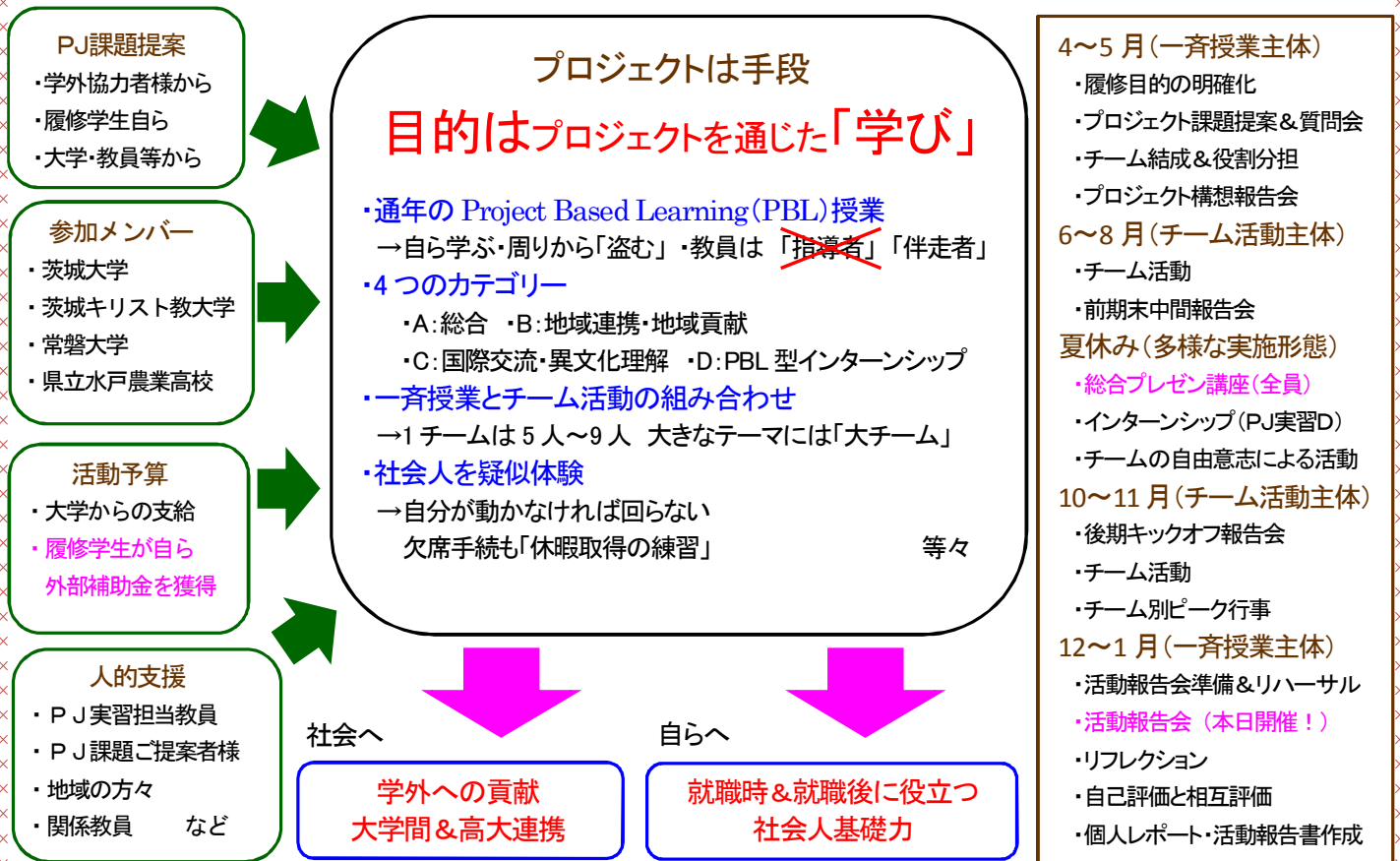
平成 29 年 12 月 9 日

報告者チーム一同

# 「茨城学」の、その先へ

— 2～4年生向け専門科目「プロジェクト実習」のご紹介 —

## プロジェクト(PJ)実習とは



2017年度に提案されたプロジェクト課題(「●●●」は成立チームの名称)

プロジェクト実習A:

地域書店の逆襲・ビブリオバトル茨城県予選会開催!(株式会社ブックエース様&茨城大学教員)

KITAIBA Art Project(茨城大学学生)「KITAIBA Art Project」

プロジェクト実習B:

若者・よそ者で里美の地域おこし活動(茨城大学学生)「カボチャで里美を盛り上げ隊」

イケてる農業で茨城の名産品「わらづと納豆」を守る!(茨城大学教員)「Comer」

プロジェクト実習C:

異文化交流プロジェクト(茨城キリスト教大学教員)「D-CEP」

プロジェクト実習D:

公共交通活性化プロジェクト(水戸市役所交通政策課様)「いばっぴ団」

こみっとフェスティバルに若者の力を!(水戸市役所市民生活課様)

コミュニケーション・リスク対策プロジェクト(NTTコミュニケーションズ株式会社技術開発部様)

まちなかワインで水戸の市街地活性化(Domaine MITO 株式会社様)「Domaine MITO」

ほしいもで那珂湊商店街活性化プロジェクト(みなとみらいプロジェクト実行委員会様)「チームみなと☆ミライ」

\*プロジェクト実習は、2018年度から「プロジェクト演習Ⅰ」「同Ⅱ」として開講します\*

# KITAIBA Art Project



メンバー 長永勇太・大貫史織・米川緩・新井ひな乃  
鎌田純平・神田紗帆・丹治彩弥乃・木村愛実  
小松崎流緋・森谷柚月・猿田百佳

## 問題提起

---

茨城県の中でも最北に位置する北茨城市には、茨城大学の五浦文化研究所があり、大学と密接なつながりがあると言ってよい。しかし同市と茨城大学学生の間にはあまり接点がないのが現状である。また同市には大学がなく、水戸などに比べ「学生の力」が比較的弱いと言える。

---

## プロジェクトとしての目的

---

そこで私たちは北茨城市を拠点とし、「アート×ヨソモノ×ワカモノ」をテーマに同市のまちおこし/まちづくり活動に参画する。地域への提案や活動を通して、地域住民の帰属意識（シビックプライド）の向上を狙う。また自分達自身も、地域社会について知り、人々と交流を通して、市への帰属意識を高めていく。こうして人々が自発的に市を盛り上げていけるサイクルを生み出すことが、このプロジェクトの目的である。

---

## 今年度の活動

北茨城市役所商工観光課様・北茨城市地域おこし協力隊様・株式会社魚の宿まるみつ様にご協力いただき、以下の通り活動を行った。

### ① 北茨城市民祭りにて WS

都築様の Facebook ページより

「六角堂」を簡易的に制作し、頭に載せる頭上建築の WS の手伝いを行った。市の魅力や文化を、再認識していただいた。



### ② 北茨城新名物「五浦そば」の開発

北茨城市の新たな名物として、「五浦そば」を開発し、茨城大学文化祭にてプレリリースを行った。市と同大学との関わりについても認知を広めることができた。

## まとめ

WS や商品開発など、当初の狙いに沿った活動を実施することができた。また私達自身も主体的な学びから様々な経験を得ることができた。これらの経験や学びからなる考えに基づき、今後もメンバーそれぞれが主体的に活動を継続していく。



# さとみ・あい

石橋佳奈 江口紗姫 大村みるほ 鬼澤麻美  
北野友香 後藤睦貴 鈴木真由 塩手菜々美  
塩畑見咲 高田美菜 永田典子 羽田野里菜  
大枝俊貴 助川実咲



おさとちゃん

常陸太田市里美地区は県内有数の**少子高齢化**地域…。  
にもかかわらず、**地域おこし**に熱心な地域！

↓そこで…

学生が**若者・よそ者**らしく協力⇨さとみ・あい

## さとみ・あいの目的

- ・里美の魅力を若者・よそ者にしっかり**伝える**
- ・自らが里美に赴き、**交流**をすることによって里美を元気にする
- ・里美・茨城大学の両方においてさとみ・あいの**知名度**を上げる

以上を掲げ、今年度のさとみ・あいは2チーム編成で活動を行った。

\* **Comer** (主要栽培作物 米に注目)

\* **カボチャで里美を盛り上げ隊** (在来作物 里川カボチャに注目)

## 活動内容

### Comer

### カボチャで里美を盛り上げ隊

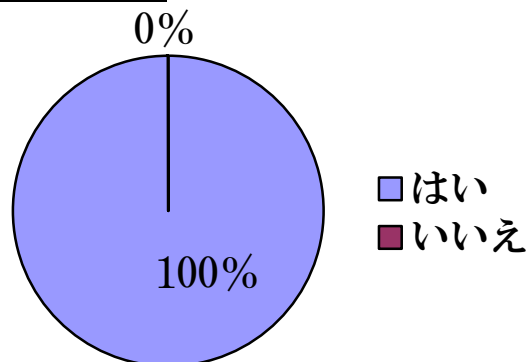
<u>稲刈り・おだかけ体験</u> おだかけを行うことで、 <u>おいしいお米</u> を作るとともに、 <u>藁納豆用の藁</u> を確保する	9月	
	10月	<u>里美 魅力発見バスツアー</u> 里川カボチャの <u>収穫</u> や、さとみ・あいメンバー <u>おすすめ</u> のスポットを巡る
<u>さとみ 秋の味覚祭</u> おだかけを施したお米のおいしさを知ってもらうため、 <u>お米「さとみまい」</u> の販売味覚祭への出店を通して <u>地域の方と交流</u> を深める	11月	<u>茨苑祭</u> 水戸農業高等学校食品化学科の協力の元、里川カボチャのおいしさを知ってもらうために <u>パイ</u> を販売 活動を知ってもらうための <u>展示</u> を行う

## C o m e r の 成 果

\* 稲刈り・おだかけ体験

アンケート結果(総数 17 件)

「達成感がありましたか？」



\* さとみ 秋の味覚祭

さとみまい 150 キロ

さとみまいを使用した栗ご飯 43 合

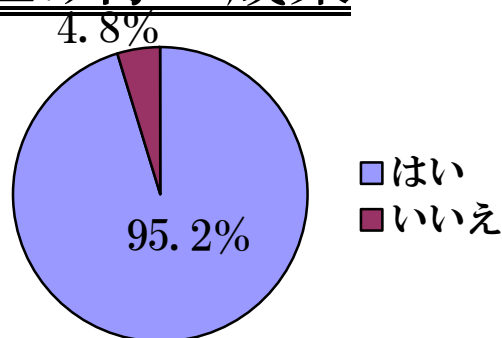
完 売

## カボチャで里美を盛り上げ隊の成果

\* 里美 魅力発見バスツアー

アンケート結果(総数 21 件)

「内容に満足しましたか？」



\* 茨苑祭

里川カボチャを使用したパイ 310 個

完 売

## ま と め

今年 は 6 年 間 の 歴 史 が あ る **里川カボチャ** を 使 用 し た 活 動 に 加 え、  
里美の主要栽培作物である**米**に注目をした活動を行った。アンケートでは目標である**80%以上**の「はい」を得ることができた。  
しかし、改善すべき点がある。今回のおだかけや魅力発信のイベントはさとみ・あいメンバーやその友人が多く、**本当に伝えたい層まで届いていない**ように感じた。活動に関心がない人の**興味を惹く**ような企画を考え、**効果的な宣伝**を行う必要がある。

# 里川カボチャの魅力を伝えるために ～私たちのチャレンジ Vor. 1～

茨城県立水戸農業高等学校 食品化学科  
1年 鴨志田優月・飯村歩未・大津ひなた  
高土夏花・野平裕美

## 1. きっかけ

自分たちのプロジェクト学習を考えるにあたり、過去の資料を色々と調べていると、今年3月に卒業した先輩たちが大学生といっしょに「里川カボチャを広く知ってもらい、常陸太田市里美地区のPRにつなげる」という活動をしていたことがわかった。この活動に私たちも興味を持ち、活動を引き継ぐこととした。

## 2. 目 標

最終目標：里川カボチャを知ってもらい、  
常陸太田市里美地区のPRにつなげる！

今回の目標：里川カボチャでスイーツを作り、  
茨城大学の茨苑祭で販売する

このような状態で  
販売



### 3. 里川カボチャパイ

#### レシピ（分量）

- ・里川カボチャ…500g
- ・牛乳……………200ml
- ・グラニュー糖…50g
- ・バター……………30g
- ・パイシート……4枚

#### レシピ（つくり方）

- ① オーブンを200℃に予熱
- ② 皮をむいて耐熱ボールにカットした、カボチャを入れる
- ③ ラップをかけ700Wで10分間加熱し、様子を見てさらに加熱
- ④ カボチャをフォーク等で粗くつぶす
- ⑤ ④にグラニュー糖とバターを入れ、さらにつぶす
- ⑥ 鍋に牛乳と⑤のカボチャを入れ、焦げないように弱火にかける
- ⑦ 鍋から取り出し、粗熱をとる（これが餡となる）
- ⑧ パイ生地の短い部分を半分に切る  
片方の生地には切れ目を入れ、もう片方にはフォークで穴をあける
- ⑨ 生地に餡をのせ、上に切れ目を入れた生地をのせ、フォーク等で縫い合わせる
- ⑩ オーブンで約20分間焼く
- ⑪ 焼け具合を見ながら取り出し、粗熱を取り完成



### 4. まとめ

#### 感想・考察

- ・先輩たちのレシピを焼き増しだったので、次は自分たちで考案したい
- ・今後の活動で、常陸太田市里美地区の魅力を伝えるために尽力したい

#### 今後の課題

- ・パイを作成した際、里川カボチャの特徴を活かしきれなかったため、さらに試作をしていき改良を重ねる
- ・今回作製できなかったスイーツのレシピを考え、里川カボチャの魅力を活かし新たなスイーツを発案する
- ・多くの人の意見を取り入れるため、他のイベントへの参加も考える



# D-CEP

メンバー：山本 麻由・大津 里奈・小野 千秋  
川本 李音・助川 里奈・細川 茜

## 異文化交流プロジェクト

7月17日（月・祝）茨城キリスト教大学にて異文化交流プロジェクトを行いました。茨城県内の高校生を集め、様々な活動を通して交流を深めました。高校生、留学生ともにお互い積極的に活動に参加する姿が印象的でした。

### ～参加してくれた留学生～

今回のイベントにはICとIUから16名の留学生に参加していただきました。

また、このイベントのメイン企画であるダンスでは、IC留学生に振り付けをしてもらいました。



### ～フリートークの様子～

フリートークでは、5～6人で自由に話をする時間を設けました。高校生がテーブルに座り、時間を区切りながら留学生に回ってもらいました。初対面で言語が違うにも関わらず、それぞれ楽しそうに会話を弾ませていました。



## ～ダンス～

留学生にあらかじめ協力を依頼し、3チームに分かれ曲を踊りました。曲は One Direction の “What Makes You Beautiful” を使用し、各チームの代表留学生が高校生に教えました。留学生と高校生が文化・言語を越えて一体となり、1つの作品を作りました。



## ～小学校国際理解活動～

11月24日（金）に日立市内の小学校でシンガポールについて国際理解活動をしました。小学生に楽しく学んでもらう活動にするために話し合いを重ねました。当日は、シンガポールについてパワーポイントを使い紹介した後、シンガポール伝統の遊びを行いました。小学生全員が興味を持ち、楽しそうに活動していました。



## まとめ

異文化交流プロジェクトでは、高校生と留学生が言葉の壁を越えてお互いの距離を縮めて行く様子が印象的でした。また、思わぬアクシデントに臨機応変に対応することを学びました。

小学校国際理解活動では、小学生の元気いっぱいな姿と活動に対する積極さに嬉しさを感じました。小学生から楽しかったという感想を、充実した活動となりました。12月7日（木）にも同様にウクライナについて日立市内の小学校で活動を行いました。

## 今後の活動

12月中旬に校内で大学に来ている留学生とインターン生向けにイベントを開催します。このイベントは、羽子板、けん玉などの昔ながらの遊びや、書道、おみくじのような日本の伝統文化を体験してもらいます。私たちはこのイベントを通じて留学生やインターン生に、より日本文化についての知識を深めてもらい日本の良さを少しでも知ってもらえたらと考え企画しました。

# Domaine MITO チーム

メンバー：鶴町直輝・水戸部麻美・三枝奈央・中野拓哉  
今川菜津美・大徳ちはる・吉川奈緒子

## 水戸産ワインを通して ～まちなかワイナリーでおともだちをつくろう～

水戸産ワインをツールとして、地域内でのコミュニティの拡大を目的として、まちなかワイナリーを通して地域の方々と、コミュニケーションをとり、新たな茨城の魅力として水戸産のワインをアピールしようと考えた。

### イントロダクション

Domaine MITO 株式会社様にご指導いただきながら、多くの方々に水戸産ワインを知ってもらおう活動を行った。Domaine MITO 株式会社様のワインは決して安くはないため、「水戸産」という他のワインにはない付加価値をアピールした。またこの付加価値を生かす販売方法として、ご自宅用に加え、ギフトにも使えるという点をアピールした。



### 材料・方法

茨苑祭では、地域の方々や、学生に水戸産ワインの存在や活動紹介をした。また、京成百貨店様のご支援を頂き、試飲販売会を行なった。そこで、アンケートを取りワインについての一般の方々の意見を知ることにした。

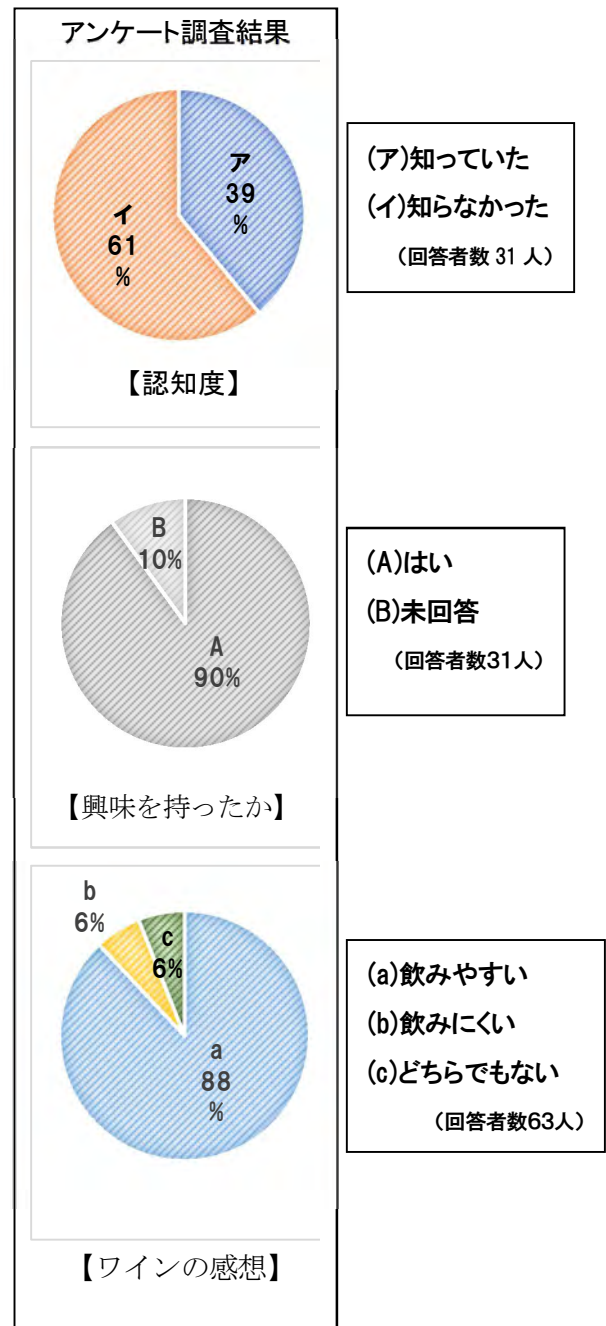


## 結果1 (茨苑祭)

Domaine MITO 株式会社様の紹介、および私たちのこれまでの活動について、写真などを用いたパネル展示を行った。茨城大学の学生や一般の方々に水戸産ワインの存在を知ってもらうことができ、やはり水戸でワインを造っているということを知らない方が多かったことから、水戸産ワインと地域の方々を繋ぐための良いきっかけとなったと考えられる。

## 結果2 (試飲販売会)

Domaine MITO 株式会社様が昨年と今年に造った3種類のワインの試飲、および販売を行いながら、地域の方々との交流の中で、水戸産ワインということアピールポイントとして紹介することができた。立ち寄って頂いた方々にアンケート調査を行い、Domaine MITO 株式会社様のワインについての感想や認知度を調査した（右グラフ）。



## まとめ

今回の活動で、私たち学生が直接、地域の方々に「水戸産ワイン」という茨城の新たな魅力を紹介できた。その結果、地域の方々と様々なコミュニケーションをとることができ、新たなコミュニティの拡大に繋がった。



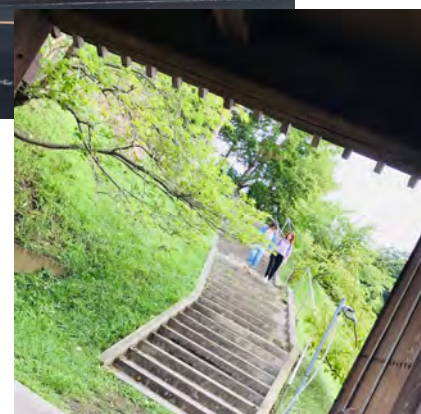
# チームみなと☆ミライ

メンバー：秋葉翔太、清水悠花、庄司彩乃、川田綾香、齊藤祐羽

私たちは、ひたちなか市那珂湊で活動する「みなと未来プロジェクト」と共に那珂湊地区を活性化させるために結成された学生チームです。茨城大学生2名、茨城キリスト教大学生3名の計5名で活動しています。

## 目的

那珂湊地域の現状把握のため実施した那珂湊訪問では、那珂湊商店街は閉まっている店が多い、認知度が低いという二つの問題点がありました。そこで、学生ならではのフレッシュなアイデアを用いて、一人でも多くの方に那珂湊及び那珂湊商店街を知ってもらい、足を運ぶきっかけ作りをしていくことになりました。



## 活動内容

### ① 広報

広報活動として、私たちは那珂湊を題材としたフリーペーパー「みなとさんぽ」、常磐大学とのコラボレーションが実現したポスター、また Twitter や Instagram などの SNS を作成し、那珂湊や私たちの活動を夜市や学園祭等で PR しました。

## ②開発

那珂湊の認知度を上げるにあたり、那珂湊の特産物である干し芋に着目しました。様々なアイデアが出てくる中で、干し芋をパウダーにすることで応用が効き、いろいろな料理に生かせるのではないかと考えました。そこで、私たちはそのほしいもパウダーを活用した、ほしいも焼きそばとほしいもプリンを開発することになりました。

ほしいも焼きそばは、那珂湊のご当地グルメの「那珂湊焼きそば」からヒントを得ました。またほしいもプリンは、身近なスイーツであり尚且つほしいもの甘さを十分に感じられるものであると考えたため、開発にいたりました。



## ③夜市・学園祭への出店

10月には那珂湊で毎月行われている夜市にてプリンの試作、販売を実施した。11月の両学園祭では、ほしいも焼きそばとほしいもプリンをそれぞれ販売しました。

## まとめ

一年間という限られた期間では、那珂湊の活性化や知名度の大幅な向上には至りませんでした。しかし、プリンや焼きそばの開発と販売、広報活動を通し、文化祭に足を運んでくださった方々や学生に那珂湊の魅力を発信し、「足を運ぶきっかけ作り」の一役を担うことができたと思います。また、私たちも今回の活動で、新たな那珂湊の魅力を再発見し、地域活性をする難しさを学んだ一方、学生や若者の可能性を実感しました。

# いばっピ団

メンバー：

(カフェ巡り宣伝部) 小宮山弥来・鹿野はるか・  
大山愛梨・川瀬葉月・片見恵都

(KB 革命隊) 五位渚梓・堀奈津実・池田真梨果・  
井上晴香・大場貴史

## 水戸市のバス利用促進に向けて

水戸市の路線バスの利用者数は、多いとはいえない現状である。対策として、(1)学生のバス利用増加策としてのカフェ巡りの提案、(2)水戸駅発のバスを利用しやすくするための、案内板の改善提案に取り組んだ。

### カフェ巡り宣伝部の活動

#### ①方針決定(5月)

バスを利用して巡るカフェマップの作成

#### ②ターゲット決定(8月)

茨城大学に入学直後の女子学生

#### ③実地調査(8~9月)

オリジナルカフェマップに掲載する  
カフェの実地調査と掲載許可依頼

#### ③茨苑祭でのプリテスト(11月)

試作品のマップを100人に見てもらい、  
アンケート調査を実施



### 結果と今後の展望

アンケートでは、「かわいい」という声が多かった一方、「作成意図が不明確」「道がわかりづらい」など、マップの本質に関わる多くの指摘を受けた。

茨苑祭で得たご意見を踏まえてマップを修正の上で本印刷し、来年度の入学式で配布する予定である。



## KB 革命隊の活動

### ①方針決定（5月）

わかりやすいバス案内板の作成

### ②地域公共交通利用促進活動助成金の獲得（5～8月）

案内板作成の費用へ

（マップやチラシにも利用）

### ③聞き取り調査（6～7月）

案内板に対しての意見を伺う

### ④ターゲット決定（7月）

遠方から来た人、水戸駅を頻繁に利用しない人

### ⑤ご意見を元にデザインを練る

バス協会様との交渉（9月）、茨城交通様からのご意見（10月）、小佐原先生からのご指導（10月）、水戸市役所様からのご意見（10月）をもとに話し合いながら、案内板のデザインを改善していった



## 今後の展望

12月：最終デザイン案決定

小佐原先生、市役所様にご相談

1月：バス協会様、各バス会社様にデザイン案のご確認

2月～3月31日：

案内板作成、完成

## まとめ

今回、カフェ巡り宣伝部も KB 革命隊も多くの人的ご支援のおかげでここまでプロジェクトを進めることができた。チームの目的である様々な方との協力を通して、相手の立場を理解しわかりやすく伝える力、アンケートによる現状分析の力を身につけることができたと考える。授業期間終了後も活動が続くが、ご支援を無駄にしないよう、最後までしっかりこのプロジェクトをやり遂げたい。